書き抜き読書ノート 1087　　2011 年 9 月 17 日

成毛眞著「日本人の９割に英語はいらない―英語業界のカモになるな―」
祥伝社 2011 年 9 月 15 日刊を読む

日本人の９割に英語はいらない―英語業界のカモになるな―

１．読書で分かる国家の衰退

（1）日本人は読書量が世界でもっとも少ない。

（2）これは OECD が行なっている PISA 調査（学習到達度調査）から分かった事実である。正確に言うと、PISA 調査は高校生が対象なので、日本の高校生は世界でもっとも読書量が少ないということになる。

（3）10 年前の調査だが、30 分以上読書する生徒の比率は、日本は 27.1%、カナダ 33.6%、フィンランド 48.6%、と日本は圧倒的に少ない（2000 年度データ）。しかも、じっと本を読むなど数分しかできない（11.4%）、本を最後まで読み終えるのは困難だ（16.9%）、どうしても読まなければならないときしか本を読まない（21.5%）、などの質問で、日本の生徒の比率はフィンランドの倍近くになった。

（4）じっと本を読むことができない高校生が 1 割もいる。それは衝撃的な話ではないか。

（5）この調査に日本の教育機関は慌てて、学校での読書の時間を増やすようになった。その結果、09 年の調査では、「読書は大好きな趣味のひとつ」と答えた生徒は 42%で、OECD 平均（33.4%）を上回った。

（6）ところが「趣味で読書はしない」という回答は 44.2%と、OECD 平均（37.4%）より上回っている。高校生が趣味以外でする読書とは何だろう。もしかして参考書を読むのも読書に換算しているのだろうか。

（7）学力がトップだった上海は「読書しない」はわずか 8%、毎日 31 分以上を読書に費やす割合は 56.1%と圧倒的に多かった。

（8）ちなみに日本は 31 分以上読書に費やす割合は 30.4%とわずかに増えたものの、大多数は 30 分読むか読まないかという結果になっている。

（9）やはり、じっと本を読むことができない高校生は多いのである。

（10）高校生は部活や受験勉強で忙しいから本を読む暇などないのだと、好意的にとらえる人もいるかもしれないが、それでは上海の学生はどうなのか。

（11）大学全入時代に突入した日本と比べ、中国は限られた一部の人しか大学には入れない。中国は出身大学によって初任給が 10 倍違う場合もある。さらに、一人っ子政策で一家の将来を担う子供は、親だけではなく祖父母の期待も一身に受け、死に物狂いで勉強している。

(12)大学に入ってもなお勉強に明け暮れ、早朝から大学の寮の廊下や校庭で、学生が大声で英語や日本語のテキストを音読している光景は、中国ではおなじみである。

(13)そこまで勉強しながら、5割は読書も欠かさないのである。

(14)だが、ここから「今の若者は勉強しない」などとありがちな結論を導き出してしまうと、物事の本質を見落としてしまう。日本では高校生だけ読書量が少ないわけではない。たいてい、親が本を読まない人種だと子供も読まないので、高校生の親の世代も読書量は少ないはずである。親の親の世代も読んでいないのかもしれない。

(15)最近は電車の中でも本を読んでいる人は少数派になった。スポーツ新聞を広げているおじさんの姿さえ、昔に比べると減ったかもしれない。座席に座るなり、携帯でメールを打ったり、ゲームやワンセグに釘付けになっているビジネスマンが多い。

(16)読書がどれほど大切なものなのか、高度成長期、バブル期とビジネスマンは金儲けに明け暮れ、学生は遊びほうけて学問を怠(おこた)ってきたので、忘れてしまっている。最近の独身女性の愛読書は絵本だという。子供のために買うのではなく、自分が読むために買うのである。それこそじっと本を読むことができないから、文章量の少ない絵本に手を伸ばすのだろう。

(17)読書をしない国民ばかりになると、国家は衰退していく。決しておおげさな話ではなく、事実日本の経済力は落ちているし、国際政治もお粗末で国際的になめられている。

(18)読書量によって国は滅びるといっても過言ではない。

(19)無学な国家は他国から食い物にされる。その危機感がある国家は国民に教育をし、国力を養おうとしているのである。

P105 ～ 108

２．日本が抱える７つの大罪

（１）日本の政治も行政もまったく当てにならないことは、今回の東日本大震災でよく分かっただろう。

（２）被災地の人たちは食うや食わずの生活を送っているのに、野党だけではなく与党内でも足を引っ張り合っている場合ではないだろうと、国民のほうが分かっている。原発事故で福島はチェルノブイリのようにこの先何十年も住めない土地になるかもしれないというのに、それでもまだ原発を推進する自治体の長もいる。経団連も新規の原発を建てるべきだと主張し、国が沈没寸前なのにいまだ自分の利益しか頭にない輩(やから)が大勢いることが露呈した。

（３）今回の国難は自然災害によってもたらされたものであっても、より深刻な状況にしたのは人災である。だが、混迷する闇の中でこそ光り輝く真実もある。

（４）京都大学原子炉実験所の助教である小出裕章(こいでひろあき)氏は原子力の研究家でありながら、40 年以上も前から原発に反対していた人物である。原発村の御用学者がぬくぬくと利権をむさぼっている間も一人で危険性を訴え続けて疎(うと)ましがられ、60 歳を過ぎた今でも助教という立場に甘んじている。教員のヒエラルキーは上から教授、准教授、講師、助教、助手となっており、助教

は下から 2 番目である。今までずっと冷や飯を食ってきたのに、それでも主張を曲げなかった小出氏の姿勢に、震災後感銘を受ける人が続出している。

（5）その小出氏は講演でガンジーの慰霊碑に刻んである、「7 つの社会的大罪」の言葉を紹介している。

7 つの社会的大罪	
①原則なき政治	(Politics without Principles)
②道徳なき商業	(Commerce without Morality)
③労働なき富	(Wealth without Work)
④人格なき学識(教育)	(Knowledge without Character)
⑤人間性なき科学	(Science without Humanity)
⑥良心なき快楽	(Pleasure without Conscience)
⑦献身なき信仰	(Worship without Sacrifice)

（6）今の日本はすべての罪を抱えてしまっている。

（7）なぜここまで墜落してしまったのだろうか。それは誰もが哲学や理念を養うべく、まともに本を読んでこなかったからだろう。

P109-111

3．私は洋書をほとんど読まない

（1）さて、洋書はほとんど読まない私も、雑誌に関しては『ロンドン・エコノミスト』『モデル・エンジニア・マガジン』など、英語雑誌を月に 4 ～ 5 冊取り寄せて読んでいる。『ロンドン・エコノミスト』はご存知のとおり世界最高峰の経済誌で、こちらは主に仕事のために購読している。

（2）一方、『モデル・エンジニア・マガジン』というのは、イギリスで出版されているミニチュア模型の雑誌だ。こちらはまったくの趣味で購読しているものである。私は、昔からモデルエンジニアリングと呼ばれる船や飛行機などのミニチュア模型を作っている。『モデル・エンジニア･マガジン』はかなりマニアックな雑誌である。

（3）不思議なもので、自分の趣味に関するものとなると、たとえ単語が分からなくても、どんなことが書かれているのかが完全に理解できる。逆に、ファッション誌などは、ビジュアルが目に飛び込んでくるだけで、何が書いてあるのかさっぱり理解できない。

（4）もし英文を読んで英語に親しみたいと思うなら、自分の一番好きなジャンルの英語雑誌を読むのをお勧めする。趣味の雑誌を読むという目的があれば、英語も理解できる。ただ英語を勉強したくて本を読んでも、内容は身につかないのである。

P129 ～ 130

4．繰り返し練習するのが基本

（1）書店にいくと「〇週間で英語が話せるようになる」「一日〇分間で英語が身につく」といった類(たぐ)いの本が目白押しである。しかし、私のまわりにはその手の本で英語が話せるようになった人はいない。

（2）英語に限らず、語学の習得には、それなりに地道な努力が付きものだと覚悟しなければならない。

（3）英語の練習法のひとつにシャドーイングというものがある。パラレル発音法と同じく、これも地味な練習法だが効果はあると思うので紹介しておこう。

（4）シャドーイングは、英語を聞きながら、0.5 秒遅れくらいに発音していく練習法である。CD などで読み上げられる英語を聞きながら、同時には難しいので、後追いするような感じで声に出す。「一文を読み終わってから繰り返せばいいのでは？」と思うかもしれないが、それでは全文を暗記しなければならないので、発音に集中できない。

（5）シャドーイングは聞くことに集中するのが基本である。そして、聞いたとおりに発音する。歌詞を見ずに好きな曲を覚えてカラオケで歌うような感覚で、言葉と節回し（発音）を覚えるのである。繰り返しシャドーイングをするうちに、アクセントのつけ方や文章のリズムもつかめるようになる。

（6）ある一定の長さの文章を、途中で止めないで声に出していくのだが、初めのうちはもごもご言うだけで終わってしまうだろう。聞き取れないものは発音できないし、自分で発音できないものは聞き取れない。かなり集中して聞かないと同じように発音できないので、ヒアリングの力がかなりつく練習法である。

（7）ただし、いきなり最初からシャドーイングをするのは難しいので、まずはテキストを見て、内容を理解した上でシャドーイングを始める。慣れるまではテキストを見ながら発音しても構わないが、慣れてきたらテキストは見ないようにする。シャドーイング用の教材もあるようだが、基本的にはテキストと音声があれば何でも構わない。

（8）シャドーイングは同時通訳の人たちのトレーニングとしてメジャーになった方法であり、かなり実践的なので、興味のある人は試してみるといいだろう。英会話スクールより効果があるかもしれない。

P232

［コメント］

マイクロソフトの元社長である成毛先生の英語教育論は痛烈だ。自らは、イギリスのロンドンで編集され世界中のビジネスマンが愛読する高級経済週刊誌「エコノミスト」を自由自在に読みこなす英語力をお持ちの先生が、お勧めになるのはシャドーイングを取り入れた音読練習。素晴らしい方法と考える。ただし、英語学習の前に、または併行して読書による思慮深さを身につけることの大切さも御指摘下さっている。大切なのは「教養」。その内容を知るために、是非本書を熟読することを強くお勧めしたい。

－ 2011 年 9 月 17 日林　明夫記－